

再評価結果（令和3年度事業継続箇所）

担当課：道路局 環境安全・防災課
担当課長名：荒瀬 美和

事業名	地高 I C アクセス 市道 東濃東部都市間連絡道路	事業区分	地方道	事象主体	中津川市
起終点	自：岐阜県 中津川市 駒場 地内 至：岐阜県 中津川市 千旦林 地内			延長	4.8 km
事業概要					
東濃東部都市間連絡道路は、地域高規格道路である濃飛横断自動車道と結節し、都市拠点間（中津川市街～恵那市街）を連絡する重要な幹線道路である。このうち、駒場～千旦林工区は、濃飛横断自動車道と（国）257号を結び、リニア岐阜県駅、中部総合車両基地等に隣接した位置を通ることにより、産業や観光の活性化や地域防災力の向上に繋がるなどの効果が期待できる。					
平成28年度事業化	都市計画決定 一部有	平成29年度用地着手	令和元年度工事着手		
全体事業費	約49億円	事業進捗率	14%	供用済延長	—km
計画交通量	約4,600台/日				
費用対効果分析結果	B/C： (事業全体) 1.1 (残事業) 1.3	総費用： (残事業)/(事業全体) 33/40 億円 事業費：32/39 億円 維持管理費：1.2/1.2 億円	総便益： (事業全体)=(残事業) 42 億円 走行時間短縮便益：37 億円 走行経費減少便益：3.6 億円 交通事故減少便益：1.5 億円	基準： 令和2年度	
感度分析の結果					
残事業についての感度分析を実施					
(事業全体) 交通量：B/C=1.0~1.2 (交通量±10%) (残事業) B/C=1.1~1.4 (交通量±10%)					
事業費：B/C=1.0~1.2 (事業費±10%) B/C=1.2~1.4 (事業費±10%)					
事業期間：B/C=1.0~1.1 (事業期間±20%) B/C=1.2~1.3 (事業期間±20%)					
事業の効果等					
① リニア岐阜県駅・濃飛横断自動車道へのアクセス向上					
・中津川市街地からリニア岐阜県駅や濃飛横断自動車道へのアクセス向上					
・地域内通過交通量の減少による地域住民の安全確保					
② 観光施設へのアクセス向上、観光振興への期待					
・リニア岐阜県駅から中津川市街の観光施設へのアクセスが向上					
・周辺観光施設との回遊性向上に伴う観光振興に期待					
③ 災害時に有効に機能するネットワークの確保					
・東海地震に関わる地震防災対策強化地域に指定されている中津川市において、災害時の緊急輸送道路として利用可能					
・リニア岐阜県駅や坂本地区等から第二次救急医療機関（中津川市民病院）への所要時間が短縮され、救急搬送体制が向上					
関係する地方公共団体等の意見					
・商工会議所や地元自治会等から早期開通を要望されている。					
事業評価監視委員会の意見					
・事業継続が妥当である。					
事業採択時より再評価実施時までの周辺環境変化等					
・建設発生土の有効活用、新技術の積極的活用等により、コスト縮減を図る。					
事業の進捗状況、残事業の内容等					
進捗率					
・用地補償進捗率 20% 全体進捗率 14% (令和2年度末時点)					
事業の進捗が順調でない理由、今後の事業の見通し等					

事業も順調に進捗しており、引き続き早期開通に向けて事業を進める。

施設の構造や工法の変更等

建設発生土の有効活用、新技術の積極的活用等により、コスト縮減を図る。

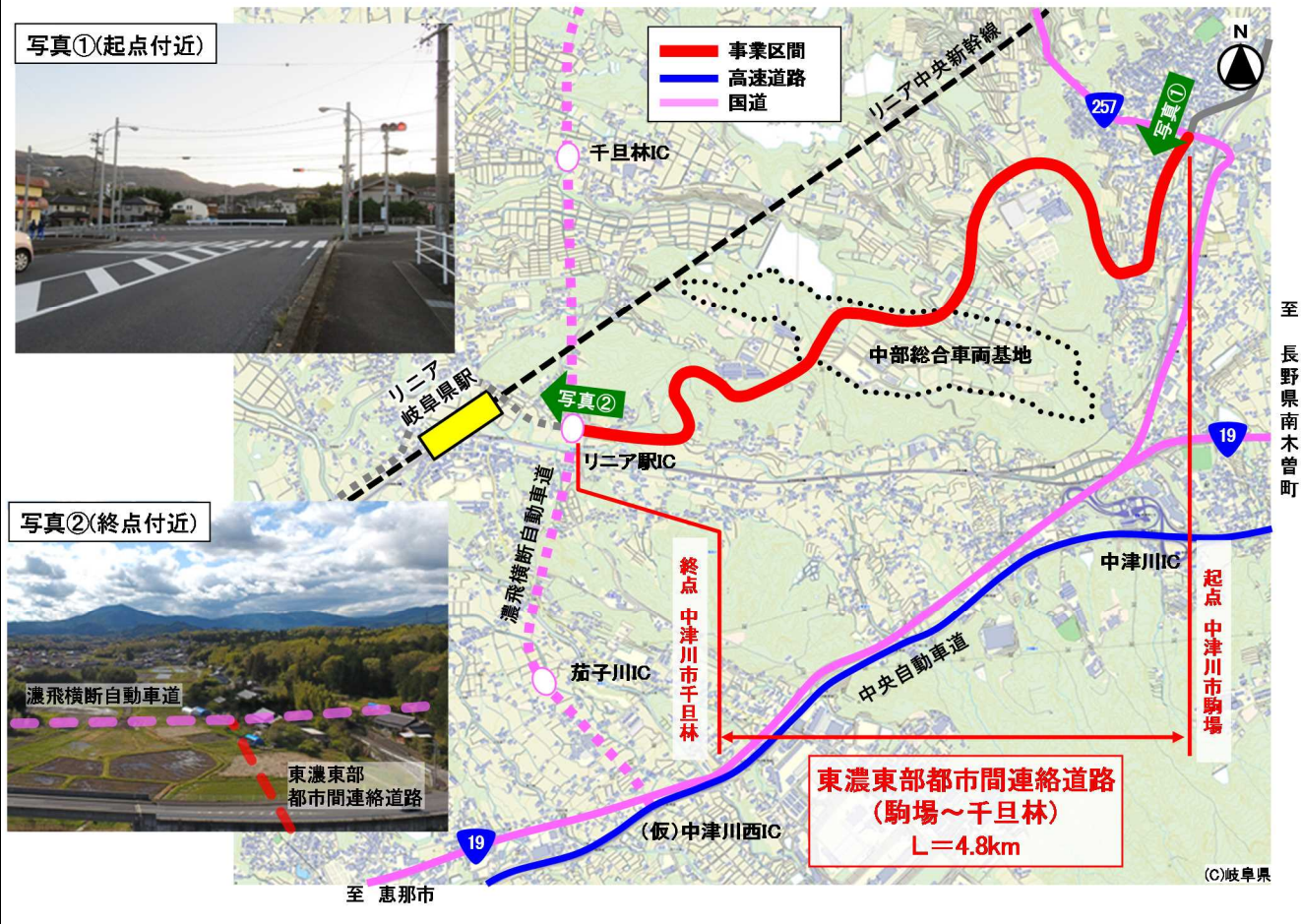
対応方針

事業継続

対応方針決定の理由

地域に与える事業効果があり、費用対効果も見込まれることから、継続して早期開通を目指す。

事業概要図



※総費用、総便益とその内訳は、各年次の価額を割引率を用いて基準年の価値に換算し累計したもの。
※総費用及び総便益の値は、表示桁数の関係で内訳の合計と一致しないことがある。